

---

<埼玉発世界行き奨学生レポート No. 4>

みなさん、はじめまして。平成 23 年度埼玉発世界行き奨学生で昨年度ラオスの首都ビエンチャンにあるラオス国立大学に留学しておりました黒川玲名と申します。

今回は、私が 10 ヶ月間住んでいたラオスについて紹介させていただきます。

ラオスは東南アジア大陸部の一ヶ国で、周りをタイ・ベトナム・カンボジア・ミャンマー・中国に囲まれています。あまり馴染みのない国かもしれませんが、日本はラオスへの最多支援国であり、実は深い関わりがあります。最貧国という位置づけでありながらも近年では観光面・経済面でも世界的に注目を集めており、今最も変化の著しい国のひとつです。

まず観光面に着目してみますと、ラオス訪問客数からその変化が明らかです。1990 年に 1 万 4400 人だった訪問客数は、1995 年に古都ルアンパバーンが世界遺産に登録されると前年比倍の 34 万人になり、2011 年には 272 万人になりました。フランス植民地だった歴史もあることから欧米人からは良く知られていたラオスですが、2008 年にニューヨークタイムズ紙にて「一生に一度は訪れるべき国」1 位に選ばれたことで観光地として注目を浴び、イギリスの旅行雑誌でもルアンパバーンが 2010 年以降 3 年連続で人気投票 1 位を獲得しました。日本人観光客も 2011 年には 3 万 8000 人にのぼり、今後も増加する期待がされています。ラオス国内でも 2012 年はラオス観光年とし、国内外で様々なイベントが開催されました。観光地としてのラオスの発展に今後も注目が集まりそうです。

次に経済面に着目します。私は 2009 年から毎年ラオスを訪れていますが、わずか 3 年の間にも目に見えた変化を感じました。最も顕著なのはメコン川の開発です。2009 年時点では赤土と川の広大さが印象的でしたが、2011 年では一面にコンクリート整備がされていてダム建設や観光用ホテルの工事も行われており、自然のメコン川が観光のメコン川に変わっていく最中を目の当たりにしました。ラオスでは近年国際会議や大会も開催されており（2004 年 ASEAN 首脳会議、2009 年東南アジア競技大会、2012 年アジア欧州会合）、その度にも都市開発が盛んに行われました。この開発には主に中国が関わっており、現在ではアセアンと中国を結ぶ高速鉄道に着工するなど積極的な大規模投資を続けています。訪れる度に様変わりするラオスの今後の成長率は未知数だと感じています。

留学中で最も印象に残っているのはラオスの温かな空気感です。穏やかな時の流れと人々の笑顔にたくさんの方の安心と癒しをもらいました。こういったラオス特有の優しさが人々を魅了している一方で、都市部の開発が進むほどに広がる格差や衛生問題など依然として課題も多く残されています。水道やインフラ整備には日本が深く貢献しています。今後も課題解決に積極的に取り組み、より良い関係を築いていくことを期待しています。

東京外国語大学 4 年 黒川玲名（平成 23 年度埼玉発世界行き「協定留学コース」奨学生）

---



↑ラオス国立大学にて、現地の小学生らと。